

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	一般財団法人 日本GAP協会
事業の概要	日本版畜産GAPの普及・推進体制の強化を図るための審査員・指導員の育成を行う。
成果目標の具体的内容	JGAP家畜・畜産物上級指導員養成研修会 50名受講、JGAP家畜・畜産物内部監査員研修会 36名受講の開催
成果目標の達成状況	複数農場から構成される団体認証の審査を行う上級指導員養成研修及び団体の事務局の内部監査員研修をそれぞれ2回開催し、上級指導員についてはのべ46名受講、内部監査員についてはのべ57名が受講し、目標を上回る人数の養成が図られた。
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p><b>B</b> : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果がみられない</p>
総合所見	<p>本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の認証取得拡大に向けて、団体認証に対応可能な上級指導員の養成研修や内部監査員の育成などの取組の結果、令和元年5月に団体認証第1号が認証された。今後の団体認証の拡大にむけた指導体制が整備されるなど成果が得られており、概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。</p>

## 日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	公益社団法人 中央畜産会
事業の概要	日本版畜産GAPの普及・推進体制の強化を図るための審査員・指導員の育成、生産者によるGAP認証取得のための支援を行う。
成果目標の具体的内容	審査員養成研修の開催2回、差分審査認証565カ所、フル認証7カ所、指導員研修の開催12回、生産現場での研修会開催24回、指導員による指導240件等
成果目標の達成状況	<p>審査員・指導員の育成について審査員研修は目標どおり2回、指導員研修は目標計画を上回る14回開催した。</p> <p>認証取得支援については、差分審査は34カ所認証したものの計画は大幅に下回った。フル審査による認証は計画を上回る18カ所を認証した。</p> <p>また、生産者への指導については、現地指導、コンサルティングは計画を下回ったものの生産現場での研修会は計画以上の31回実施した。</p>
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる「に</p> <p><b>B</b> : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果がみられない</p>
総合所見	<p>本事業の主目的である「日本版畜産」の認証取得拡大に向け、審査・指導体制の強化を図るとともに、農場HACCP認証農家等を対象に研修会を開催する等の指導を行うなど着実に成果が認められる。</p> <p>認証取得農家数について、特に農場HACCP認証からの差分認証については、農場HACCP自体の認証拡大を過大に見込んでいた(農場HACCP認証農場数は令和元年11月26日現在268農場)ため、差分審査も成果目標を下回ったものの、認証開始初年度である前年度の実績を上回る認証を行い、フル審査による認証取得も成果目標を上回るなど概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。</p>

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	岩手県								
事業の概要	畜産農家が消費者から信頼を獲得し、安定した経営を継続するため、家畜衛生や食品安全、労働安全などの記録や見える化の取組を行う日本版畜産GAPの認証取得に向けた取組を支援することを目的として、新たなGAP指導者の養成と地域研修会の開催、GAP取得を目指す農場への個別指導、認証審査可能な水準に達した農場に対して専門コンサルタントによる指導を行ったもの。								
成果目標の 具体的内容	<table border="0"> <tr> <td>①指導者養成の研修会の開催</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>②生産現場での研修会の開催</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>③生産者への普及、指導</td> <td>16経営体</td> </tr> <tr> <td>④コンサルタントによる指導</td> <td>2経営体</td> </tr> </table>	①指導者養成の研修会の開催	2回	②生産現場での研修会の開催	4回	③生産者への普及、指導	16経営体	④コンサルタントによる指導	2経営体
①指導者養成の研修会の開催	2回								
②生産現場での研修会の開催	4回								
③生産者への普及、指導	16経営体								
④コンサルタントによる指導	2経営体								
成果目標の 達成状況	<table border="0"> <tr> <td>①指導者養成の研修会の開催</td> <td>2回（参加 人数 45名）</td> </tr> <tr> <td>②生産現場での研修会の開催</td> <td>4回</td> </tr> <tr> <td>③生産者への普及、指導</td> <td>延べ 23回（20経営体）</td> </tr> <tr> <td>④コンサルタントによる指導</td> <td>0経営体</td> </tr> </table>	①指導者養成の研修会の開催	2回（参加 人数 45名）	②生産現場での研修会の開催	4回	③生産者への普及、指導	延べ 23回（20経営体）	④コンサルタントによる指導	0経営体
①指導者養成の研修会の開催	2回（参加 人数 45名）								
②生産現場での研修会の開催	4回								
③生産者への普及、指導	延べ 23回（20経営体）								
④コンサルタントによる指導	0経営体								
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p><b>B</b> : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果が見られない</p>								
総合所見	<p>新たな指導者の養成を達成し、GAP認証取得を支援する体制を整えることができた。また、生産者現場での研修会を計画どおりに開催することで、畜産GAP制度周知を図った。専門コンサルタントによる指導は対象生産者が管理点と適合基準を理解しておらず、認証審査のための準備ができていなかったことから、コンサルを受ける水準になかったため行うことができなかったが、GAPに関心のある農場には個別指導などの支援を計画以上に行うことで、GAP取得への関心が高まる効果が見られたため、おおむね計画どおりの成果が見られる。なお、事業執行については適切に執行された。</p>								

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	茨城県
事業の概要	グローバル化の進展等により、食品安全や環境保全、人権保護等の「見えない価値」が消費者より求められている。こうした「見えない価値」を日本版畜産GAP認証に取り組むことで、「見える化」することにより、海外産畜産物との競争に生き残ることを目的とし、県におけるGAP認証件数の拡大が図れるよう認証取得を希望する生産者を支援する体制を整備。
成果目標の 具体的内容	①指導者養成の研修会の開催 35名 ②生産現場での研修会の開催 4回 ③生産者への普及、指導 38経営体
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 35名 ②生産現場での研修会の開催 4回 ③生産者への普及、指導 延べ48回(38経営体)
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる ⓑ : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	指導員養成については、計画どおり35名が指導員資格を取得することができた。県内生産者に対し、関係機関が連携し生産者への現地指導を実施したことで、GAP認証取得までには至らなかったがGAP取得チャレンジシステム登録希望農家7経営体(うち3農場は登録済)とすることができ、GAPの普及推進を図るとの事業の成果が見られる。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	群馬県
事業の概要	日本版畜産GAPの取得経営体数の増加、国産畜産物に対する評価の向上等に向け、GAPの認証取得、推進等の取組を支援。具体的には、GAP指導員の有資格者を養成し、指導体制を構築。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 36名
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 36名 ②生産者への普及、指導 延41回(11経営体)
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	指導員の養成については、計画どおり36名が指導員資格を取得することができ、指導体制の構築が図られた。今後は指導員から指導を受けた農場等が少しでも多く認証取得できるようきめ細やかに指導助言を実施する必要がある。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	静岡県
事業の概要	既存の静岡県GAPの実績を活かしながら当該事業を実施することにより、日本版畜産GAPを指導できる指導員を養成し、普及推進体制を整備する。さらに持続可能な畜産のための日本版畜産GAP認証取得の拡大推進を図る。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 30名 ②指導員を対象とした生産現場指導研修会の開催 3回 ③生産者への普及、指導 41経営体
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 30名 ②内部監査員育成の研修会の開催 3名 ③指導員等を対象とした生産現場研修 3回（4農場） ④生産者への普及、指導 延べ483回（41経営体）
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる <input checked="" type="radio"/> B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	計画していた指導員養成の他団体認証を指導する内部監査員の養成も実施し、指導体制を整備、生産者への周知や指導を行うことで、畜産GAP認証取得を目指す生産者の増加傾向が見られるなど、効果は着実に現れはじめており、今後さらなる成果が得られると思われる。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	石川県
事業の概要	県内の畜産農家の持続的な経営安定及び県産畜産物に対する評価向上等に向けて、日本版畜産GAPの認証取得、推進等の支援をすることを目的として、日本版畜産GAP指導推進支援の取組を行う。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 20名
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 20名 ②生産者への普及、指導 延べ9回（4経営体）
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる <input checked="" type="radio"/> B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	計画どおり 20名の指導員が育成されており、目標は達成されている。なお、県内畜産農家でのGAP認証取得には至らなかったものの、計画していなかった今回育成された指導員による畜産農家への普及推進、意欲的な経営体への個別指導が行われており、今後、GAP認証取得やGAP取得チャレンジシステムの実施が期待できる。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	岐阜県
事業の概要	日本版畜産GAPの認証取得を拡大するために行う生産者等が日本版畜産GAPの認証取得を目指し、コンサルタントの指導を受ける取組を支援。
成果目標の 具体的内容	①コンサルタントによる支援 8件
成果目標の 達成状況	①コンサルタントによる支援 1件
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p>B : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>Ⓒ : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	CSFの発生が続き、事業計画が縮小されたため、成果目標は達成できなかった。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	三重県
事業の概要	日本版GAPの推進に必要な指導員を育成するために 行う研修会の開催等実施。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 30名 ②内部監査員養成の研修会の開催 10名
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 29名 ②内部監査員養成の研修会の開催 5名
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる <input checked="" type="radio"/> B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果がみられない
総合所見	指導員育成については、ほぼ計画どおり 29 名が指導員 資格を取得することができた。また、団体認証を指導する 内部監査員の養成については、計画していた 10 名から 5 名となったものの、これらの指導員により、5 経営体が日 本版畜産GAP認証取得するなど事業の成果が見られる。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	徳島県
事業の概要	日本版畜産GAP指導員や内部監査員の養成研修及び生産者研修会の開催により、GAPの指導体制の構築を図るとともに、GAPの認証取得の拡大を図る。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 20名 ②生産現場での研修会の開催 1回(20名)
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 20名 ②内部監査員養成の研修会の開催 2名 ③生産現場での研修会の開催 1回(45名) ④生産者への普及、指導 6経営体
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	指導員養成については、計画どおり20名が指導員資格を取得することができた。また、計画していなかった団体認証を指導する内部監査員の養成も行った。本事業により養成された指導員及び内部監査員が、実際に生産者への指導を行い、6経営体のうち1経営体が日本版畜産GAP認証取得へと繋がっており、事業の効果が見られる。

日本版畜産GAP認証取得等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	佐賀県
事業の概要	県内の畜産農家に日本版畜産GAPの認証取得を推進するため、GAPの指導体制を整備し、指導員の育成、生産現場における研修会の開催、GAPの普及推進、GAP認証の取得に係る研修を行う。
成果目標の 具体的内容	①指導員育成の研修会の開催 17名 ②指導員を対象とした生産現場指導研修会の開催 3回 (延べ125名) ③生産者への普及、指導 延べ24回(4経営体) ④コンサルタントによる指導 2件
成果目標の 達成状況	①指導員育成の研修会の開催 24名 ②内部監査員養成の研修会の開催 4名 ③指導員を対象とした生産現場指導研修会の開催 4回 (延べ130名) ④生産者への普及、指導 延べ13回(7経営体) ⑤コンサルタントによる指導 0件
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	指導員育成については、計画以上の24名が指導員資格を取得することができた。また、計画していなかった団体認証を指導する内部監査員の養成も行った。さらに、指導員のレベルアップ研修を行いつつ、指導体制の強化を図りながら、GAPに取り組意欲のある7経営体に対して指導を行ったが、認証取得までには至っていない。今後とも、GAPの認証取得のため取組意欲のある経営体へ指導を継続するとともにGAP取得やチャレンジシステムの実施を働きかけが必要である。

日本版畜産GAP推進等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	一般財団法人 日本GAP協会
事業の概要	日本版畜産GAPにより生産された畜産物を適切に取り扱うための分別管理方策の検討等、日本版畜産GAPの取得拡大のための差分審査の検討、国際規格化に向けた国内外での情報収集等の取組を行う。
成果目標の具体的内容	分別管理検討会 3 回及び分別管理研修会 1 回の開催 他の認証スキームとの差分審査の検討 国内外の畜産GAP実態調査、英語版基準書及び英語版パンフレットの作成
成果目標の達成状況	分別管理検討会は計画どおり実施し、分別流通のための方策をとりまとめたものの、分別畜産物に貼付するロゴマーク運用規定の改定に時間を要したことなどから、分別管理研修会は開催しなかった。 他の認証スキームとの差分審査の検討については、SQF、FSSC22000 を検討したものの、差分審査文書の需要が見込まれないことから、差分審査文書の作成には至らなかった。 その他の事業については概ね成果目標が達成できている。
総合評価	<p> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A</span> : 計画以上の成果が見られる  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">B</span> : 計画どおりの成果が見られる  <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">C</span> : 計画どおりの成果がみられない         </p>
総合所見	本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の認証取得拡大に向け、GAPに取り組む生産者の畜産物（食肉）を適切に取り扱うための方策のとりまとめを行い、同協会のホームページ上にチェックリストとともに掲載するとともに北海道、カナダの現地調査を行い、作成した英語版基準書、パンフレットをカナダ政府等の関係者に配布する等概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。

## 日本版畜産GAP推進等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体名	公益社団法人 畜産技術協会
事業の概要	<p>アニマルウェルフェア（AW）について、国内における飼養管理や流通等の実態調査、国際機関及び諸外国等における国際基準の策定・改正等に関する調査やそれに対応した飼養管理指針の検討等を行い、検討結果を踏まえた事業成果報告（飼養管理指針の改訂）の作成を行うことで国際規格との整合化を図るとともに、AWに配慮した家畜の飼養管理等に関するパンフレットの作成や研修会等を開催することにより、生産現場等へのAWの更なる普及・啓発を図り、持続可能性に配慮した飼養管理への取組を推進する。</p>
成果目標の具体的内容	<p>AWに関する情報収集（国内調査3件、海外調査2件）、飼養管理指針に係る検討会の開催（9回）、飼養管理指針の改訂、セミナー等の開催（7回）</p>
成果目標の達成状況	<p>成果目標に掲げられた情報収集（国内調査5件、海外調査2件）を行った上で、検討会（7回）を開催し「AWの考え方に対応した家畜の飼養管理指針」を改訂した。また、セミナー等（17回）を実施したことで、AWの普及・推進を行っており、概ね成果目標が達成されている。</p>
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる  <input checked="" type="radio"/> B : 計画どおりの成果が見られる  C : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	<p>国内外のAWについて情報収集を行った上で、これらを活用した検討会を開催し、5畜種（乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、ブロイラー）の「AWの考え方に対応した家畜の飼養管理指針」について改訂した。また、同指針について、都道府県や畜産関係機関への配布を行うとともに、AWセミナー・シンポジウムを通じ、AWの内容について普及・推進を行うなど、計画どおりの成果が見られた。</p>

日本版畜産GAP推進等支援事業に関する事業評価票

事業実施主体	公益社団法人 中央畜産会
事業の概要	日本版GAP取得の準備段階の取組となる「GAP取得チャレンジシステム」の自己点検システムの維持、研修会の開催、現地指導等を実施する。
成果目標の具体的内容	生産者向け自己点検システムのサーバー1台を維持、セミナー8回開催及び現地指導を30件実施
成果目標の達成状況	自己点検システムに必要なサーバー1台を維持し、セミナーは8回、現地指導は27件とほぼ計画どおり実施した。
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p><b>B</b> : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果がみられない</p>
総合所見	<p>本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の認証取得拡大に向け、平成30年度末までに累計61経営体がGAP取得チャレンジの確認済み経営体となり、うち30経営体はJGAPの認証取得に移行し、着実に成果が得られていることから、概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。</p>